

発展練習問題 5-3

<解答>

製造原価に含まれる減価償却費の金額：426,600円

販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費の金額：282,000円

【解説】

減価償却費は製造に関連する固定資産の場合には間接経費として製造原価に含まれるが、製造に関連しない固定資産の場合には販売費及び一般管理費に含まれる。この点について理解しているかを問う問題である。

なお、減価償却の方法として工業簿記の問題ではほとんど出題されない定率法、生産高比例法、200%定率法が出てくるが、日商2級商業簿記の出題範囲ではあるので、本問のように工業簿記の問題の中で商業簿記の知識を問う問題が出題されることもあり得る。

資料のうち、No. 2, 3, 6, 7 は製造に関連する固定資産なので減価償却費は製造原価に含まれる。また、No. 1, 4, 5 は製造以外に関連する固定資産なので販売費及び一般管理費に含まれる。これをふまえて、No. 1~7 の減価償却費を計算すると次のようになる。

No. 1 本社ビル（定額法） $3,000,000 \times 0.9 \div 30 = 90,000$

No. 2 工場建物（定額法） $5,000,000 \times 0.9 \div 30 = 150,000$

No. 3 組立用工作機械（定率法） $(1,200,000 - 432,000) \times 0.2 = 153,600$

No. 4 営業用社用車（生産高比例法） $900,000 \times 18,000 \div 100,000 = 162,000$

No. 5 役員室応接セット（定額法） $180,000 \div 6 = 30,000$

No. 6 原材料運搬用フォークリフト（200%定率法）

償却率の計算： $1 \div 5 \times 2 = 0.4$

償却額の計算： $(600,000 - 360,000) \times 0.4 = 96,000$

No. 7 工場勤務社員用食堂（定額法） $900,000 \times 0.9 \div 30 = 27,000$

以上より、No. 2, 3, 6, 7 の合計額と、No. 1, 4, 5 の合計額をそれぞれ計算すると解答のようになる。

なお、減価償却費の計算式に含まれている 0.9 であるが、これは残存価額が取得原価の 10% (=0.1) である場合、次の算式により、減価償却費を計算することに由来する。

減価償却費 = (取得原価 - 取得原価 × 0.1) ÷ 耐用年数 = 取得原価 × 0.9 ÷ 耐用年数

※固定資産は取得した年度によって、減価償却費を計算する際に、残存価額 10% で計算する場合と、残存価額 0 円として計算する場合がそれぞれある。簿記検定の場合には、残存価額について必ず指示があるので、それに従えばよい、